

**Bad Cat<sup>®</sup>**  
TUBE AMPLIFIERS USA

## **HOT CAT 30/30R**

取扱説明書/保証書



## ■安全上のご注意

この機器を使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読み、火災、感電、人身傷害の危険を防止するために指示を守ってください。



### 警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡または重症等重大な事故を引き起こす可能性が予想されます。

- △ この機器を分解したり、改造したりしないでください。
- △ 修理／部品の交換等で、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。
- △ 感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。
- △ 修理は、販売店に依頼してください。
- △ この機器は音量設定により難聴になる可能性があります。音量の調整に注意し、大音量で長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。

### 設置環境に関して

- △ 次のような場所での使用や保管はしないでください。
  - ・ 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上等)
  - ・ 水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床等)や湿度の高い場所
  - ・ 雨に濡れる場所
  - ・ ホコリの多い場所
- △ この機器の上に液体の入った容器、殺虫剤、香水、アルコール類、マニキュア、スプレー缶等を置かないでください。
- △ この機器を、ぐらついた台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。
- △ この機器の上に乗ったり、上に重いものを置かないでください。
- △ この機器を落としたり、衝撃を与えないでください。
- △ この機器に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金等)や液体(水、ジュース等)を絶対に入れないでください。

### 電気、電源に関して

- △ 電源プラグは、必ずAC100Vのコンセントに差し込んでください。
- △ 付属電源コードはこの機器以外には使用しないでください。
- △ 電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。
- △ 濡れた手で電源プラグを持って、コンセントに抜き差しをしないでください。
- △ 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。
- △ この機器を移動するときは、電源プラグをコンセントから外し、外部機器との接続を外してください。
- △ 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから外してください。
- △ 落雷の恐れがあるときは、電源プラグをコンセントから外してください。
- △ 完全に電源を切る必要があるときは、この機器のPOWER ON/OFFスイッチを切った後、コンセントから電源プラグを抜いてください。この機器はコンセントに接続されている場合、POWER ON/OFFスイッチがオフになっていても、電源から完全に絶縁されていません。
- △ 次のような場合は、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから外し、販売店に修理を依頼してください。
  - ・ 電源コードや電源プラグが破損したとき
  - ・ 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
  - ・ 機器が(雨等で)濡れたとき
  - ・ 機器に異常や故障が生じたとき
- △ 電源は、タコ足配線等の無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量(ワット／アンペア)を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。
- △ アンプの電源をオンにした状態でヒューズの交換をしないでください。また定格を超えたヒューズを使わないでください。(機器の安全の為にヒューズが装備されています。ヒューズは外部の衝撃や寿命で切れることもあります。ヒューズが切れた場合内部に重大な故障が発生している可能性が有りますのでヒューズを交換する前に販売店にご相談ください)



### 注意

取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険、物的損害の発生が想定されます。

- △ ギター、シールド・ケーブル、エフェクター等のケーブルの接続、取り外しはボリュームを”0”にするか、POWER ON/OFFスイッチを切ってから行ってください。ケーブルを抜き差しする際のノイズは誤作動やスピーカー破損等この機器に深刻なダメージを与える場合があります。

- △ 小さなお子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人の方が、監視／指導してあげてください。
- △ 接続したコードやケーブル類は、繁雑にならないように配慮してください。また小さなお子様の手が届かないように配慮してください。

#### 使用上のご注意

- △ 雑音を発生する装置（モーター、調光器等）や消費電力の大きな機器とは、別のコンセントを使用してください。
- △ 電源プラグを差し込むコンセントは、この機器にできるだけ近い場所のものを使用してください。
- △ この機器の近くにパワー・アンプ等の大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- △ 故障の原因になりますのでスイッチやつまみに必要以上の力を加えないでください。
- △ テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- △ 携帯電話等の無線機器をこの機器の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時にこの機器から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器をこの機器から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- △ 至近距離から照らす照明器具や強力なスポット・ライトで長時間同じ位置を照射しないでください。変形、変色することがあります。
- △ この機器の上にゴム製品やビニール製品等を長時間放置しないでください。変形、変色することがあります。
- △ この機器にシール等を貼らないでください。はがす際に外装の仕上げを損なうことがあります。

#### お手入れについて

- △ この機器の表面をお手入れする前に、電源プラグをコンセントから外してください。
- △ お手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、堅く絞った布で汚れを拭き取ってください。
- △ 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

#### その他の注意について

- △ 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子等に過度の力を加えないでください。
- △ 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、特に夜間は音量に十分注意してください。
- △ 他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカー等の破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

### ■真空管アンプ特有の注意点



#### 警告

##### 真空管は高熱になります！

- △ 火傷に注意し、熱いうちは決して触れないでください。
- △ 放熱には空気の循環が必要なため、背面を壁から**最低15cm以上**離して設置してください。放熱が妨げられると、回路を傷めアンプ寿命を縮めます。また真空管がオーバーヒートにより壊れる恐れがあります。
- △ アンプ使用時には、空気の妨げになるため、決してカバーや布等をかけたりしないでください。



#### 注意

- △ 真空管は振動やショックをあたえないように注意して取り扱ってください。
- △ 品質の良くないアッテネーターはパワーアンプ真空管を痛めますので決して使用しないでください。
- △ 使用後カバーをかけて保管する場合は、真空管の温度が下がるまで待ってからカバーをかけてください。真空管の温度が熱いうちにカバーをかけると回路がダメージを受けたり、カバーが熱で溶けてしまう恐れがあります。
- △ 電源を入れた直後に、ギター信号を送ると真空管を痛め、真空管の寿命を早めます。また真空管が温まるまで音が出されません。真空管はギター信号を送る前に適度な時間のウォームアップにより寿命が延びます。電源を入れてからギター信号を送るまで、**少なくとも1分間**温めてください。
- △ ギターの信号を送ることなく、長時間電源を入れ続けると真空管の寿命を早めますので避けてください。練習時の休憩や、演奏の合間等には電源を落としてください。
- △ 使用後、移動させる場合は、真空管の温度が下がるまで待ってから移動してください。冷えていない状態で移動させると振動やショックで真空管が破損する恐れがあります。
- △ 出力が弱くなってきたり、音にパンチがなくなってきたり、ノイズが増えてきた場合は真空管が劣化している可能性があります。その場合はまずパワーアンプ真空管の交換をお勧めします。その上でノイズが減らない場合は、プリアンプ真空管の交換をお勧めします。（通常プリアンプ真空管はパワーアンプ真空管の数倍寿命が長いので、まずはパワーアンプ真空管の交換をお勧めいたします）

## ■はじめに

この度はBAD CATギターアンプHOT CAT30/30Rをお買い求め頂き、誠にありがとうございます。  
本製品の機能を十分に活用していただくために、ご使用前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。  
また本書は大切に保管してください。

## ■特徴

HOT CATはBAD CATが世界で初めて開発したハイゲインのクラスAアンプです。米GUITAR PLAYER誌選出する「歴代最高のコンポアンプBEST10」の2位を始めとした数々の賞を受賞しています。HOT CATはその後改良を重ね、本製品では新たにK MASTERボリュームコントロールを搭載し、より幅広い音作りが可能になりました。煌くクリーンサウンドから、ハーモニクスに満ち溢れたハイゲイン・ディストーションサウンドまで、様々なサウンドを一台で作り出すBAD CATを代表するモデルです。

### K MASTER®ボリュームについて

2015年モデルより搭載されたK MASTERボリュームとは、プリアンプチューブで作成したクリーンサウンドを、歪ませることなくパワーアンプで増幅させるためにBAD CATが独自開発したボリュームコントロールです。従来のマスターボリュームの仕組みでは、パワーアンプチューブをドライブさせるためには、プリアンプチューブのドライブに依存する必要があり、その結果出力を上げていくとプリアンプチューブが飽和し、音に歪みが発生していました。BAD CATはプリアンプチューブとパワーアンプチューブのゲイン回路を独立させ、K MASTERボリュームと命名。例えば15ワットのアンプであれば15ワットまで、30ワットのアンプであれば30ワットまで、最大出力で鳴らしたとしてもクリーンサウンドを維持することができるようになりました。反対に、自宅練習用に音量を絞った場合でも、ライブで演奏するときと同じドライブが得られる等、プレイヤーの演奏環境や練習環境を十分に改善させるシステムです。

## ■仕様

電圧:	100V, 50/60Hz
入力:	1/4インチ(6.5mm)・フォンジャック
定格出力:	30W (クラスA回路)
プリアンプ・チューブ:	12AX7 × 4
パワーアンプ・チューブ:	EL34 × 2
整流管:	GZ34(5AR4)
出力インピーダンス:	4Ω、8Ω、16Ω切替 (出荷時8Ω)
スピーカー:	12インチ (BAD CAT専用セレクション・スピーカー)
コントロール:	CH1: VOLUME, BASS, TREBLE, K MASTER, REVERB(30R) CH2: GAIN, BASS, MID, TREBLE, K MASTER, REVERB(30R), PRESENCE(CH1, 2共通) 他: INPUT CH SELECT, POWER SW, STANDBY SW, IMPEDANCE SELECT
入出力端子:	(GUITAR) INPUT, CHANNEL SWITCHING F/S, SPEAKERS, (EFFECT) SEND, (EFFECT) RETURN
サイズ、重量:	1*12"コンポ: H508×W610×D267mm 27.4kg 2*12"コンポ: H508×W673×D267mm 32.4kg ヘッド: H254×W533×D267mm 15.9kg
付属品:	電源ケーブル、フットスイッチ

\*製品の仕様は品質向上のため予告無く変更する場合があります。

## ■各部の名称と働き

### 表側コントロール・パネル(30R)



### ■INPUTジャック/INPUTチャンネルSELECT:

標準1/4"ジャックの入力端子です。シールドケーブルを用いてエレクトリック・ギターと接続してください。  
ジャック下のスイッチでチャンネル1とチャンネル2が切り替えられます。

## ■ CHANNEL1:

### VOLUMEコントロール

CH1の音量を調節します。

CH1はCLEANチャンネルとしてデザインされていますが、VOLUMEを上げることで、ピッキングによって軽いオーバードライブサウンドを得ることもできます。

### BASSコントロール

アクティブEQコントロールでCH1の低音域のブースト/カットを行います。通常のギターアンプと比べて非常に広い音域をカバーしています。またTREBLEコントロールとも連動していますので、組み合わせにより更に広いレンジをコントロールできます。

### TREBLEコントロール

アクティブEQコントロールでCH1の高音域のブースト/カットを行います。通常のギターアンプと比べて非常に広い音域をカバーしています。12時から15時の間で特に大きくトーンが変化します。BASSコントロールとの連動によりクリアーな低音域と、甘くもエッジがしっかり出る高音域のスイートスポットを是非探してみてください。

### K MASTERボリュームコントロール

BAD CATが独自開発したK MASTERボリュームは一般的なアンプにおけるマスターボリュームとは違いプリアンプチューブとは独立した回路でパワーアンプチューブをドライブさせるボリュームコントロールです。例えば小音量でクリアーなサウンドを作った上で、K MASTERボリュームを上げていくと、サウンドが歪むことなく音量が上がっていきます。反対に、K MASTERボリュームを使えば、サウンドを歪ませたまま音量を抑えることもできます。自宅練習時等にご活用ください。

K MASTERボリュームは通常のマスターボリュームよりも高くゲインを設定できるため、もしフィードバックノイズが乗るようなことがあれば、VOLUMEやEQコントロール等を抑える等して調節を行ってください。

### REVERBコントロール(30Rのみ)

CH1のスプリングリバーブの効きをコントロールします。右に回すとより強い残響効果を生み出す音質に変化します。リバーブ回路はBAD CATが独自にデザインしました。トーンにきらめきを与え、クラシックなスプリングリバーブやサーフ・リバーブからホール・リバーブまで幅広い音質を生み出します。全てのリバーブレンジで使えるサウンドを実現するために細心の注意を払いデザインされています。エフェクターやデジタル・プロセッサーでは再現不可能な最高品質のリバーブです。

## ■ CHANNEL2:

### GAINコントロール

CH2のプリアンプ・ゲイン・レベルを調整します。CH2はHOT CATの定評のあるオーバードライブ/ディストーション・チャンネルです。9時～12時程度でブルースやクラシックロック等に適したクランチ・サウンドになり、12時を超えるとハードロックやヘヴィメタルに適したディストーションサウンドを生み出します。HOT CATのゲインは非常に繊細で、ギターのボリュームノブ調節やピッキング・アタックの強さに強く影響を受けます。リード・サウンドを作る際にはギターのボリュームノブを最大値にし、ボリュームノブを調節することで、バックイング・サウンドやクランチサウンドを作り出してください。また、ピッキングアタックを細かく変化させることで、歪み具合を加減し、更に多彩なサウンドを生み出すことができます。

### BASSコントロール

アクティブEQコントロールでCH2の低音域のブースト/カットを行います。エレキギターの音響域のなかでも、特に重要な低音域部分にあわせて注意深く音域設定されています。お好みのサウンドに深みを足したり、低音域を強調したパンチのあるサウンドまで作り上げます。

### MIDコントロール

アクティブEQコントロールでCH2の中音域のブースト/カットを行います。BASSコントロールやTREBLEコントロールで調整し切れない音域の調整を行ってください。中音域を増幅させると、サウンドに厚みや重みを持たせることができます。反対に中音域を減少させると、空気感のあるサウンドになります。

### TREBLEコントロール

アクティブEQコントロールでCH2の高音域のブースト/カットを行います。通常のギターアンプと比べて非常に広い音域をカバーしています。12時から15時の間で特に大きくトーンが変化します。BASSコントロールとの連動によりクリアーな低音域と、甘くもエッジがしっかり出る高音域のスイートスポットを是非探してみてください。

### K MASTERボリュームコントロール

CH1同様にCH2のボリュームをコントロールします。

### REVERBコントロール(30Rのみ)

CH1同様にCH2のリバーブをコントロールします。

## ■ PRESENCEコントロール

両チャンネルに効きます。右に回すと高音域のハーモニクスを加え、ブライトなサウンドに変化します。左に回すと高音域のハーモニクスをカットし、ダークなサウンドに変化します。

## 本体裏側



### 電源コード・ソケット

付属の電源コードを差込み、反対側をコンセントに差し込んで使用してください。

### 電源 ON/OFFスイッチ

電源のオン・オフ切替を行うスイッチです。オンにする前にSTANDBYスイッチがSTANDBY(下)になっていることをご確認ください。これによりパワーチューブの寿命を延ばすことを助けます。

### STANDBY スイッチ

真空管のヒーター以外の各回路の電源を落としてアンプを待機状態にするスタンバイスイッチです。オンと同時にアンプを稼働させることができます。このスイッチを利用することにより真空管の寿命を延ばすことができます。



#### 注意 電源ON/OFFスイッチ、STANDBYスイッチの順序

**電源を入れる場合:** STANDBYスイッチがOFFになっていることを確認した上で電源ON/OFFスイッチをONにします。少なくとも1分、可能な限り約3分経ってからSTANDBYスイッチをONにしてください。

**電源を落とす場合:** STANDBYスイッチをOFFにします。しばらく音が出るので、その音が出なくなったら電源ON/OFFスイッチをOFFにしてください。



#### 警告

電源ON/OFFスイッチをオンにする前に、必ずVOLUME/K MASTERコントロールが“0”であることを確認してください。VOLUME/K MASTERコントロールが上がった状態で電源をオンにした場合、突然大きな音が出力され聴覚を害する恐れがあります。また突然の過大入力によりスピーカーが損傷することがあります。

### △ H.T.FUSE (ハイテンション・ヒューズ)

電気系統に規定以上の電流が流れると、ヒューズが切れて過電流から電装品を保護し、故障や火災等の発生を防ぎます。もしも電源が入らない場合はコンセントを抜いてから、ヒューズの点検・確認を行ってください。また定格を超えたヒューズを使用しないでください。(機器の安全の為にヒューズが装備されています。ヒューズは外部の衝撃や寿命で切れることもありますが、内部に重大な故障が発生している可能性が有りますのでヒューズを交換する前に販売店にご相談ください)

### FOOTSWITCHジャック

付属のフットスイッチを接続します。CH1、CH2の切替が可能です。

### SPEAKERSジャック

標準1/4"ジャックの入力端子です。スピーカーケーブルを使用し内部スピーカーやエクステンション・スピーカー(外部スピーカー)に接続します。



#### 注意

スピーカーをつないでいない状態では、決して電源を入れないでください。

### IMPEDANCE SELECT

スピーカーのインピーダンスを設定するスイッチです。スピーカーのラベルや、スピーカー・キャビネットに記載の「ohms」もしくは「Ω」と記載されている数字に合わせて選択します。1台以上のスピーカーに接続する場合は「オームの法則」に従いインピーダンスを計算し、適正なインピーダンスに合わせて選択します。(例: 8Ωのキャビネットを2台接続する場合は、4Ωを選択します)



#### 注意

エクステンション・スピーカー(外部スピーカー)を接続する場合は、スピーカーのインピーダンス・マッチングに注意してください。エクステンション・スピーカーのインピーダンスと本機のインピーダンスをトータルで計算し、適切なインピーダンスで接続してください。間違ったインピーダンスで接続した場合、トランスフォーマー(電源)が壊れる、真空管が焼きつく等甚大な被害が生じる可能性があります。これは保証対象外です。正しいインピーダンスで接続した場合は問題なく動作します。もし計算方法がわからない場合や「オームの法則」に精通していない場合は、販売店やアンプ技術者等にご相談ください。正確なインピーダンスが解らない場合は重大な問題が起きる可能性がありますので決して接続しないでください。また2Ω以下では決して使用しないでください。

## SEND RETURNジャック (エフェクト・ループ)

### SENDジャック

標準1/4"ジャックの出力端子です。外部エフェクター等のINPUTに接続します。  
プリアンプ・アウトとしての接続も可能です。

### RETURNジャック

標準1/4"ジャックの入力端子です。外部エフェクター等のアウトプットから接続します。  
SEND & RETURNはプリアンプとパワーアンプの間に設定されていますので外部プリアンプの接続も可能です。

## ■真空管配置図

